

## 2005年度2学年現代文 1学期期末考査

この問題用紙はファイルに綴じて保存すること。( )とじていない場合はファイル提出不合格となる。)

字は丁寧に書くこと。極端なくせ字、汚い字、読みとれない字の場合は減点の対象になる。  
漢字を使うこと。常用漢字を書かない場合、減点の対象になる。

文章を書くときには句読点「。」や「、」を絶対に忘れないこと。ついてない場合は減点の対象になる。  
ファイル提出はテスト後です。テスト後の授業時に指示をするので、その時に提出しましょう。

次の文章について後の問いに答えなさい。

袁修は恐怖を忘れ、馬から降りて叢に近づき、  
(ニ) ナツカシゲに久闊を叙した。そして、なぜ叢から  
出て来ないのかと問うた。李徴の声が答えて言う。自  
分は今や異類の身となっている。どうして、おめ  
めと故人の前にあさましい姿をさらせようか。かつま  
た、自分が姿を現せば、必ず君に畏怖嫌厭の情を起こ  
させるに決まっているからだ。しかし、今、(ア) は  
らずも故人に会うことを得て、愧赧の念をも忘れるほ  
どにナツかしい。どうか、ほんのしばらくでいいから、  
我が醜惡な今の外形を(イ) いとわず、かつて君の友李  
徴であったこの自分と話を交わしてくれないだろうか  
後で考えれば不思議だったが、そのとき、袁修は、  
この超自然の怪異を、実に素直に受け入れて、少しも  
怪しもうとしなかった。彼は部下に命じて行列の進行  
をとどめ、自分は叢の(エ) カタワラに立って、見えざ  
る声と対談した。都のうわさ、旧友の消息、袁修が現  
在の地位、それに対する李徴の祝辞。青年時代に親し  
かった者どうしの、あの(ロ) 隔てのない語調で、それ  
らが語られた後、袁修は、李徴がどうして今の身とな  
るに至ったかを(シ) タズネタ。草中の声は次のように  
語った。

今から一年程前、自分が旅に出て汝水のほとりに泊  
まった夜のこと、一睡してから、ふと目を覚ますと、  
戸外でだれかが我が名を呼んでいる。声に応じて外へ  
出てみると、声は闇の中からしきりに自分を招く。覚  
えず、自分は声を追うて走りだした。(セ) ムガムチコ  
ウで駆けて行くうちに、いつしか途は山林に入り、し  
かも、知らぬ間に自分は左右の手で地をつかんで走っ  
ていた。なにか、体中に力が満ち満ちたような感じで、

軽々と岩石を跳び越えて行つた。気が付くと、手先や  
ひじの辺りに毛を生じているらしい。少し明るくなっ  
てから、谷川に(ウ) 臨んで姿を映して見ると、既に虎  
となっていた。自分は初め目を信じなかった。次に、  
これは夢に違いないと考えた。夢の中で、これは夢だ  
ぞと知っているような夢を、自分はそれまでに見たこ  
とがあったから。どうしても夢でないと悟らねばなら  
なかったとき、自分は茫然とした。そうして懼れた。  
全く、どんなことでも起こり得るのだと思うて、深く  
懼れた。しかし、なぜこんなことになったのだろう。  
分からぬ。全く何事も我々には分からぬ。理由も分  
からずに押し付けられたものをおとなしく受け取つて、  
理由も分からずに生きてゆくのが、我々生き物のさだ  
めだ。自分はすぐに死を思つた。しかし、そのとき、  
目の前を一匹のうさが駆け過ぎるのを見たとなんに  
自分の中の人間はたちまち姿を消した。再び自分の中  
の人間が目覚ましたとき、自分の口はうさぎの血に  
まみれ、辺りにはうさぎの毛が散らばっていた。これ  
が虎としての最初の経験であつた。それ以来今までに  
どんな所行をし続けてきたか、それは(エ) どうてい語  
るに忍びない。ただ、一日のうちに必ず数時間は、人  
間の心が還ってくる。そういうときには、かつての日  
と同じく、人語も(カ) アツレれば、複雑な思考にも  
堪え得るし、経書の章句を誦んずることもできる。そ  
の人間の心で、虎としての己の残酷な行いのあとを見、  
己の運命を振り返るときが、最も情けなく、恐ろしく、  
憤るしい。しかし、その、人間に還る数時間も、日を  
経るに従つてしだいに短くなってゆく。今までは、ど  
うして虎などになつたかと怪しんでいたのに、この間  
ひよいと気が付いてみたら、おれはどうして以前、人  
間だったのかと考えていた。これは恐ろしいことだ。

いまして、おれの中の人間の心は、獣としての習慣の中にすっかり埋もれて消えてしまっただろう。ちやうど、古い宮殿の（<sup>95</sup>）礎がしだいに土砂に埋没するように。そうすれば、しまいにそれは自分の過去を忘れ果て、一匹の虎として狂い回り、今日のように途で君と出会っても故人と認めることなく、君を裂き喰うてなんの悔いも感じないだろう。（オ）いったい、獣でも人間でも、もとは何かほかのものだったんだろう。初めはそれを覚えているが、しだいに忘れてしまい、初めから今の形のものであったと思い込んでいるのではないか？ いや、そんなことはどうでもいい。おれの中の人間の心がすっかり消えてしまえば、恐らく、そのほうが、おれは いあわせ になれるだろう。だのに、おれの中の人間は、そのことを、この上なく恐ろしく感じているのだ。ああ、全く、どんなに、恐ろしく、哀しく、切なく思っているだろう！ おれが人間だった記憶のなくなることを。この気持ちはだれにも分らない。だれにも分からない。おれと同じ身の上になった者でなければ。ところで、そうだ。おれがすっかり人間でなくなってしまう前に、一つ頼んでおきたいことがある。

袁修はじめ一行は、息をのんで、叢中の声の語る不思議に聞き入っていた。声は続けて言う。

ほかでもない。自分は元来詩人として名を成すつもりでいた。しかも、業いまだ成らざるに、この運命に立ち至った。かつて作るところの詩数百編、（カ）もとより、まだ世に行われておらぬ。遺稿の所在ももはや分からなくなっている。ところで、そのうち、今もなお記誦せるものが数十ある。これを我がために伝録していただきたいのだ。何も、これによって一人前の詩人面をしたいのではない。（キ）作の巧拙は知らず、とにかく、産を破り心を狂わせてまで自分が生涯それに（<sup>96</sup>）シユウチャクしたところのものを、一部なりとも後代に伝えないでは、死んでも死にきれないのだ。

問一、——部（<sup>97</sup>）（<sup>98</sup>）の漢字はその読みを、カタカナは、漢字に直して記しなさい。（送り仮名がある場合、それも記すこと。）

問二、——部（ア）（キ）の語句を文脈に合うように、別の表現で言い換えなさい。

問三、——部「おめおめと」について、次の問に答えなさい。

（１）「おめおめと」の語句の意味を記しなさい。

（２）李徴が発した「おめおめと」という言葉には李徴が袁修に自分の姿を見せられないという理由が含まれている。（１）の語句の意味を入れてその理由を記しなさい。

問四、——部「理由も分からずに押し付けられたものをおとなく受け取って、理由も分からずに生きてゆくのが、我々生き物のさだめだ」とあるが、李徴は非論理的にこの考えに至っている。この李徴の「非論理性」がわかる15字以内の一文を——よりも前の文章より抜き出しなさい。

問五、部「いあわせ」に傍点「、」が付いているのはなぜか？簡潔に説明しなさい。

次の文章について後の問いに答えなさい。

なぜこんな運命になったか分からぬと、先刻は言つたが、しかし、考えようによれば、思い当たることが全然ないでもない。人間であつたとき、おれは努めて人との交わりを避けた。人々はおれを倨傲だ、(ア)尊大だと言つた。実は、それがほとんど羞恥心に近いものであることを人々は知らなかつた。もちろん、かつての郷党の鬼才と言われた自分に、自尊心がなかつたとは言わない。しかし、それは臆病な自尊心とでも言うべきものであつた。おれは詩によつて名を成そうと思ひながら、進んで師に(シ)ツイタリ、求めて詩友と交わつて切磋琢磨に努めたりすることをしなかつた。かといつて、また、おれは俗物の間に伍することも潔しとしなかつた。ともに、我が臆病な自尊心と、尊大な羞恥心とのせいである。己の珠にあらざることを惧れるがゆえに、あえて刻苦して磨こうともせず、また、己の珠なるべきを半ば信ずるがゆえに、碌々として瓦に伍することもできなかつた。おれはしだいに世と離れ、人と遠ざかり、憤悶と慙恚とによつてますす己の内なる臆病な自尊心を飼ひふくらせる結果になつた。人間はだれでも猛獣使いであり、その猛獣に当たるのが、各人の性情だといふ。おれの場合、この尊大な羞恥心が猛獣だつた。(ハ) だつたのだ。これがおれを(ニ)擲ない、妻子を苦しめ、友人を傷つけ、果ては、おれの外形をかくのごとく、内心にふさわしいものに変えてしまつたのだ。今思えば、全く、おれは、おれの持つていたわずかなかりの才能を(イ)空費してしまつた訳だ。人生は何事をもなさぬにはあまりに長いが、何事かをなすにはあまりに短いなど口先ばかりの警句を弄しながら、事實は、才能の不足を暴露するかもしれないとの卑怯な危惧と、(ウ)刻苦をいとう怠惰とが、おれのすべてだつたのだ。おれよりもはるかに(エ)トボシイ才能でありながら、それを(オ)専一に磨いたがために、堂堂たる詩家となつた者がいくらでもいるのだ。虎と成り果てた今、おれはようやくそれに気が付いた。それを思うと、おれは今も胸を焼かれるような悔いを感じる。おれにはもはや人間としての生活はできない。たとえ、今、おれが頭の中で、どんな優れた詩を作つたにしたらと

で、どういつ手段で発表できよう。まして、おれの頭は日ごとに虎に近づいてゆく。どうすればいいのだ。おれの空費された過去は？ おれはたまらなくなる。そういうとき、おれは、向こうの山の(カ)頂の巖に登り、空谷に向かつてほえる。この胸を焼く悲しみをだれかに訴えたいのだ。おれはゆうべも、あそこで月に向かつてほえた。だれかにこの苦しみが分かつてもえられないかと。しかし、獣どもはおれの声を聞いて、ただ、懼れ、ひれ伏すばかり。山も木も月も露も、一匹の虎が怒り狂つて、哮つているとしか考えない。天に躍り地に伏して嘆いても、だれ一人おれの気持ちを分かってくれる者はない。ちようど、人間だつたころ、おれの傷つき易い内心をだれも理解してくれなかつたように。おれの毛皮のぬれたのは、(キ)夜露のためばかりではない。

ようやく辺りの暗さが薄らいできた。木の間を伝つて、どこからか、暁角が哀しげに響き始めた。

もはや、別れを告げねばならぬ。酔わねばならぬときが(ク)虎に還らねばならぬときが(ク)近づいたから、と李徴の声が言つた。だが、お別れする前にもう一つ頼みがある。それは我が妻子のことだ。彼らはいまだ虜略にいる。もとより、おれの運命については知るはずがない。君が南から帰つたら、おれは既に死んだと彼らに告げてもらえないだろうか。決して今日のこただけは明かさないでほしい。厚かましいお願いだが、彼らの孤弱をあわれんで、今後とも道塗に飢凍することのないように計らっていただけるならば、自分にとって、恩倖、これに過ぎたるはない。

問一、——部(じ)の漢字はその読みを、カタカナは、漢字に直して記しなさい。(漢字に直すときは送り仮名がある場合、それも記すこと。)

問二、——部(ア)の語句を文脈に合うように、別の表現で言い換えなさい。

問三、——部「己の珠にあらざる」こともできなかった。」について、次の問いに答えなさい。

(1)「珠」の一般的な意味(辞書に載っている意味)を記しなさい。

(2)この部分は比喩表現である。李徴は何を懼れ、何を半ば信じているのか、比喩表現を使わずに説明しなさい。

問四、( )に当てはまる漢字一字を記しなさい。

問五、——部「それを思つと、おれは今も胸を焼かれるような悔いを感じる」とあるが、今李徴はどうすればよかったと考えているのか。簡潔に記しなさい。

問六、——部「空谷に向かってほえる」とあるが、この李徴の行動の理由として最も適当なものを次から選り記号で答えなさい。

- (ア)自分はここにいると周りに認めさせたいから。
- (イ)自分の考えでは方法が見つからから。
- (ウ)自分の勇猛さを周りに認めさせたいから。
- (エ)自分の作った詩を聞いてもらいたいから。

問七、——部「李徴の声が言った」とあるが、どうして「李徴が言った」という表現ではないのか。その表現の効果を簡潔に記しなさい。

問八、——部で、李徴は自分が「死んだ」と妻子に告げてほしいと頼んでいるが、それは何のためか。どうして「行方不明」のままではなく「死んだ」と告げてほしいのか、妻子の視点からこの理由を論じなさい。(原稿用紙の使い方に従い、200字以内で記すこと。)

次の言語についての問題に答えなさい。

問一、解答用紙にある各表現の間違い部分に傍線を引き、( )に正しいものを記しなさい。間違いがない場合は( )に「」と記しなさい。

問二、解答用紙にある漢字はどこか間違っている。解答欄に正しい漢字を直しなさい。間違っていない場合は解答欄にと記すこと。